

第2回加東市行財政改革推進委員会 会議の概要

(平成22年度 第2回推進委員会)

開催日時	平成23年1月13日(木) 午後7時～午後9時
開催場所	加東市役所 社庁舎 3階 第一委員会室
出席状況	委員：12名(全員出席) 市側：山田副市長 事務局：企画部長、企画政策課長ほか1名
会 議 の 概 要	
<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 新谷委員長 山田副市長</p> <p>3 協 議</p> <p>(1) 第1回委員会の会議録について →第1回委員会の会議録が確定したので、市ホームページで公開する。</p> <p>(2) 行財政改革大綱の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅰ部大綱素案に対する委員の意見と市の回答 ・第Ⅱ部実施計画素案に対する委員の意見と市の回答 ・自由意見 <p>→時間の都合で、すべての資料の協議ができなかったため1月28日(金)までに意見等を、任意様式で事務局に提出することとした。</p> <p>(3) 次回の推進委員会の日程について →平成23年2月8日(火) 午後7時から開催、場所は後日決定する。</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p>	

主な意見の要旨等〔→以下は、事務局等の回答〕

- 提出した委員の意見については、大綱に反映されていくのか。
 - できるだけ反映していくが、総論的な意見は文章化しにくいいため、現在の記載内容について、「書き方が弱い。」とか「〇〇に変えたほうが良い。」というふう具体的に指摘いただきたい。
- 推進本部に若手職員を入れるのは、職階制で編成されている組織のため難しいと思うが、若手職員の意見を聞くということは非常に大切だと思う。
 - 若手職員が意見等を発言できる風通しの良い組織風土を醸成したいと考えています。
- 「行政経営」の脚注で、民間の経営手法を取り入れて市民の満足度を向上させると示されているが、民間の経営手法を取り入れるなら、そこで働く職員の満足度を上げることが必要で、この点も脚注に記載すべきではないか。
 - 職員が元気でやる気がないと市民の満足度を向上させることはできないと思うが、日本国憲法に公務員は「全体の奉仕者」と明記されているので、職員の満足度と市民の満足度を併記しないほうが良いと考えます。
- 部門別職員数の近隣市との比較では、人口、その他特別な条件を追記し、適正化の判断材料とする必要がある。
 - データが古くて申し訳ないが、総務省の「平成20年度市町村決算カード」のデータを示したいと考えます。
 - 決算カードでの加東市の状況は、北播磨5市で、財政力指数は0.84で一番良いけれど、経常収支比率は93.5で3番目となっている。比較的多くの収入があるが、使い道が決まっており、自由に使えるお金がない状況といえます。
- 商工会などでは県内の商工会で人事交流しているが、市役所はどうか。
 - 兵庫県への派遣はあるが、市同士での交流はしていません。
- 公共施設の統廃合は、サービス低下を頭に入れて、やり遂げないといけない。
- 市のホームページは、調べものをする時に探しにくいと感じている。
- アパート住まいでは、ケーブルテレビがなく、広報も届かないなど、市の情報を得られない状況がある。
 - まず、地域の自治会に加入していただきたい。また、市広報は郵送も可能です。
- 国で「新しい公共」宣言がなされているが、「地域協働（市民参加）の推進」の項で、この言葉を書き込むことはできないか。
 - 文言として書き込むことは可能ですが、書いた以上は実行しなければならないので、検討時間がほしい。
- 第Ⅱ部の実施計画は、具体的な取組の行動計画とするには、年度別計画で大まかすぎる部分があるように思う。
 - 認識しています。なんとか行革担当課と市民サービスを最前線で提供する現場との温度差を埋めていきたいと思えます。